

# インフォメーション・コーナー

山形県沖を震源とする地震により被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を祈念しております。

## 会 告

○公益社団法人農業農村工学会第52回定時総会の報告	72
○農業農村工学会代議員選挙結果について	73
○2019年度名誉会員の推挙について	73
○2020年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再) 締切 10月31日	73
○第43回「水の週間」水のワークショップ・展示会について(第2報) 8月13~15日開催	74
○サマーセミナー2019参加者募集!(第2報) 参加申込締切 8月上旬	75
○2019年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について(再) 申請締切 9月13日	75
○今年もやります! こりゃ映像! 2019—ミニ動画コンテスト—(再) 応募締切 7月31日	76
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	77
○消費税率の改定予定に伴う定価表示の変更について(再)	77
○PWE誌年間購読料の値下げについて(再)	77
○会費等の「振込手数料」のご送金者(会員様等)負担について(再)	77
○「農業土木標準用語事典 改訂5版」の会員価格に関するお知らせ(再)	78
○学生会員入会時の特典について	78
○「CPD技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について(再)	78
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	78
○2020年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9月30日	79
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	80
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局について	81
○令和元年度東北支部総会・第61回東北支部研究発表会ならびに第51回東北支部研修会・ 第41回地方講習会の開催について(第2報) 発表申込締切 9月20日	82
○第70回関東支部大会(講演会・講習会等)の開催について(第2報) 講演申込締切 8月2日	82
○第74回中国四国支部講演会ならびに第43回地方講習会の開催について(第3報) 講演原稿締切 8月21日	84
○土壌物理研究部会第58回研究集会の開催について(第1報) 10月25日開催	85
○第29回農村道路研究部会・研究集会の開催について(第1報) 発表申込締切 9月30日	85
○日本混相流シンポジウム2019の開催について 8月5~7日開催	86
農業農村工学会論文集内容紹介	87
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」内容紹介	88
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可)一覽	94
受入れ図書	95
学会記事	96

### 第87巻第8号予定

展望:大島学人

#### 小特集:農村地域における生活環境整備の現状と今後の対応策

報文:人口減少に対応した農村集落の機能集約の考え方:桑原耕一

報文:生活基盤整備の動態からみた台湾の農村再生の位置づけ:九鬼康彰ほか

報文:中山間地域の低利用公共施設の利用に関する実践:武田 勇ほか

報文:農村地域の生活排水処理の実態・課題と汚泥の資源循環:原田茂樹ほか

報文:農業水利施設が有する断水時生活用水供給能の評価法の検討:和泉晴日ほか

#### 技術レポート

北海道支部:水中型センサーシステムによる農業用管路の漏水量調査:稲本 晃ほか

東北支部:伝統的な農村景観の保全と活用をめざしたむらづくり:小野寺健一

関東支部:小口径パイプラインにおける管内カメラ調査:坂本良子ほか

京都支部:古江隧道の補修補強工事とコウモリの保護:中尾隼人

中国四国支部:四箇池導水路におけるサイホン・水路トンネルの長寿命化対策:西口康弘ほか

九州沖縄支部:簡易潤滑油診断装置を活用した地上ポンプの機能診断:嘉数松彦

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2019年8月 13～15日	農業用水展示実行委員会	第43回「水の週間」水のワークショップ・展示会	—	東京都	87巻6,7号
2019年8月 27日	創立90周年記念式典実行委員会	創立90周年記念式典	—	東京都	—
2019年9月 4～6日	大会運営委員会	2019年度（第68回）農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	東京都	86巻12号 87巻1,4号
2019年9月 6～8日	農業農村工学サマーセミナー実行委員会	サマーセミナー2019	農業農村工学が令和で切り開く未来～話と輪をつなぐ若手交流～	東京都	87巻6,7号
2019年9月 19日	農村計画研究部会	第41回現地研修集会 Ⓟ	農村における再生可能エネルギーの創出の現状と今後の展望	那須塩原市	87巻6号
2019年10月 17, 18日	中国四国支部	第74回講演会・第43回地方講習会 Ⓟ	—	山口市	87巻5,6,7号
2019年10月 25日	土壌物理研究部会	第58回研究集会	土壌-根-植物-大気:根圏の水・物質動態と作物モデル	つくば市	87巻7号
2019年11月 8日	関東支部	第70回支部大会 Ⓟ	—	沼津市	87巻5,7号
2019年11月 12, 13日	東北支部	令和元年度総会・第61回研究発表会・第51回研修会・第41回地方講習会 Ⓟ	—	秋田市	87巻6,7号
2019年11月 13日	農村道路研究部会	第29回研究集会 Ⓟ	スマート農業の普及・地域活性化に寄与する農村道路・基盤整備のあり方	新潟市	87巻7号
2019年11月 14, 15日	九州沖縄支部	2019年度支部大会 Ⓟ	—	大分市	87巻4号
2019年11月 27, 28日	京都支部	第76回研究発表会 Ⓟ	—	和歌山市	87巻4,6号

## 公益社団法人農業農村工学会第52回定時総会の報告

- 日時 2019年5月29日（水）14:00～14:40
- 場所 農業土木会館2階A会議室
- 代議員現在数及び定足数 現在数110名 定足数55名
- 出席代議員数 92名（内、出席4名、書面により議決権を行使した代議員59名、委任状により議決権を代理行使した代議員29名）
- 定足数の確認等  
総務部長が、定款第21条に基づき定足数の充足による本定時総会の成立を確認した。
- 出席役員  
村上 章会長、大村 仁副会長、小泉 健専務理事、森 丈久監事
- 議長の選出  
村上会長が仮議長となり、全員一致で吉田修一郎代議員を議長に選出した。
- 議事録署名人の選出  
議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、下舞寿郎、長坂貞郎の両代議員を全員一致で選出した。
- 議事  
決議事項  
(1) 議案-1 2018年度事業報告  
専務理事から同議案について説明があり、事業計画に

掲げた事項が遂行された実績を確認し、審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。

## (2) 議案-2 2018年度決算

専務理事から同議案について、財務諸表をもとに公1調査研究等事業会計、公2技術推進事業会計及び法人会計の説明があった。この際、森丈久監事から2018年度事業報告及び決算についてその内容を監査した結果、適正正確であるとの報告があった。審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。

## (3) 議案-3 名誉会員の推挙

専務理事から同議案について、19名の方の名誉会員推挙の説明があった。審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。

## 報告事項

## (1) 報告事項-1 2019年度事業計画

専務理事から2019年度事業計画について説明があった。

## (2) 報告事項-2 2019年度予算について

専務理事から2019年度予算について説明があった。

議長は、以上をもって議案の審議等を終了したので、14時40分議事の終了を宣言した。

### 農業農村工学会代議員選挙結果について

公益社団法人農業農村工学会 会員各位

公益社団法人農業農村工学会  
会長 村上 章

2019年5月29日に実施した代議員選挙の結果、下記の名簿のとおり代議員として選出されたので、代議員選挙規程第11条第3項の規定によりお知らせします。

記

公益社団法人農業農村工学会 代議員名簿

(任期：2019年5月30日～2021年5月代議員選挙終了の日)

○所属支部：北海道支部

川端伸一郎, 宗岡 寿美, 柏木 淳一, 中村 和正,  
塩屋 俊一, 草薙 忍, 足立 一郎, 芳賀 是則,  
堀井 健次, 加藤 聡

○所属支部：東北支部

森 洋, 森 淳, 金山 素平, 近藤 正,  
北辻 政文, 奥山 武彦, 申 文浩, 加藤 公平,  
千田 康, 板垣 正彦, 古川 達也, 伊藤 啓治,  
千葉 和彦, 千葉 伸裕, 佐々木久則, 舩谷 雅広,  
工藤 淳, 長谷部英徳, 保科 秀隆, 菊地 和明

○所属支部：関東支部

横井 績, 安部 伸治, 松本 雅夫, 渡嘉敷 勝,  
藤原 信好, 東 崇史, 渡邊 修一, 女屋 一之,  
林 淳一, 小島 光, 野瀬 友利, 松村 清久,  
山田 英樹, 所 弘志, 櫻井 正陽, 栗田 徹

水見 洋, 宮本 直彦, 下舞 寿郎, 松田 祐吾,  
小島 信彦, 西脇 淳子, 加藤 亮, 鈴木 純,  
松岡 延浩, 中村 貴彦, 大澤 和敏, 笹田 勝寛,  
足立 泰久, 吉田修一郎

○所属支部：京都支部

坂田 寧代, 平松 研, 岩間 憲治, 藤原 正幸,  
櫻井 伸治, 井上 一哉, 酒井 俊典, 長野 峻介,  
松野 裕, 葭井 功治, 南 格, 前田 健次,  
坪谷 満久, 川島 英樹, 家元 雅夫, 木戸 敏浩,  
若山 幸人, 田中 宏明, 藤本 隆治, 由谷 倫也,  
田村 匠, 森井 喜博, 川口 義人, 小林 健二,  
井賀 尚哉, 壺岐 宏, 鈴木 正彦, 丹羽 啓文,  
浅田 務, 堺 政弘

○所属支部：中国四国支部

猪迫 耕二, 小林 範之, 工藤 亮治, 角道 弘文,  
松本 伸介, 渡邊 雅彦, 島崎 俊宏, 足立 和彦,  
細川 信佳, 八尋 浩司, 永嶺 栄治, 柏谷 隆弘,  
小山 輝己, 越智 龍太, 豊永 竜二

○所属支部：九州沖縄支部

野中 振拳, 濱井 和博, 島 武男, 石松 健一,  
島内 利昭, 土井 幸寿, 久保田 修, 加藤 正明,  
小野 正寛, 東郷 清次, 仲村 哲, 平松 和昭,  
近藤 文義, 中園 健文, 肥山 浩樹, 仲村渠 将,  
本口 晴年, 木原 泰信

### 2019年度名誉会員の推挙について

2019年5月29日に開催された第52回定時総会の推挙により、以下の皆様が新たに名誉会員となりました。

これにより名誉会員の現在数は、292名となりました。

・新規名誉会員（敬称略）

池田 文雄, 大久保 博, 太田 信介, 大坪 政美,

大野 貞二, 小倉 康弘, 小野 英雄, 加藤 徹,  
北村 義信, 久保 成隆, 斎藤 仁志, 高木 東,  
茨木 教晶, 福富 幹男, 藤居 宏一, 松岡 肇,  
元杉 昭男, 安村 廣宣, 渡邊 紹裕

### 2020年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

2020年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、2019年10月末日です。推薦書様式および授賞規程

は学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）をご参照ください。

2020年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与する優れた業績	農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2014年10月から2019年9月までに発表されたものとする。ただし、その5か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2016年10月から2019年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2016年10月から2019年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2018年10月から2019年9月までに発表されたものとする。	2018年10月から2019年9月までに発表されたものとする。	2017年10月から2019年9月までに発表されたものとする。	2014年10月から2019年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与する優れた業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など質向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2009年10月から2019年9月までに発表されたものとする。	2014年10月から2019年9月までに行った活動とする。	2017年10月から2019年9月までに行った活動とする。	2014年10月から2019年9月までに行った活動とする。	2014年10月から2019年9月までに行ったものとする。	2014年10月から2019年9月までに行ったものとする。	2017年10月から2019年9月まで制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2019年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2020年度(第69回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2019年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

第43回「水の週間」水のワークショップ・展示会について (第2報)

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めております。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントの一つとして出展します。

多くの方のご来場をお待ちしております。

詳細は次号でお知らせします。

記

1. 会期 2019年8月13日(火)～15日(木)
2. 場所 東京国際フォーラム G棟 701
3. 主催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会
4. 全体テーマ 水のハッピーデー～水について学ぼう～
5. 農業用水テーマ びっくり!農業用水のふしぎ
6. 展示内容 学生によるワークショップ、iPad アプリによるゲーム、パネル展示、田んぼの生き物水槽など

## サマーセミナー 2019 参加者募集！ (第2報)

### 農業農村工学が令和で切り開く未来～話と輪をつなぐ若手交流～

はじめまして、農業農村工学サマーセミナー実行委員会です！ サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生・若手研究者間の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。1997年から重ねて20回目となる今回は、令和の元年ということで、【農業農村工学が令和で切り開く未来～話と輪をつなぐ若手交流～】をテーマに、楽しい3日間をしたいと思います。

他大学の学生と議論をしてみたい方、将来のキャリアを見据え人脈を広げたい方、あるいは進路について相談したい方など、どんな方でも大歓迎です。同じ農業農村工学を学ぶものとして、私たちが実現したい未来について一緒に考えましょう！たくさんの方のご参加をお待ちしています。

#### 1. 主 催

農業農村工学会サマーセミナー実行委員会

大山幸輝 (鳥取大学大学院連合農学研究科)

浅田洋平 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

清水海斗 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

杉本卓也 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

田中宣多 (京都大学防災研究所)

松田壮顕 (京都大学大学院農学研究科)

鈴木友志 (京都大学大学院農学研究科)

尾関竣哉 (大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)

#### 2. 日 時

2019年9月6日(金)大会講演会終了後～8日(日)昼過ぎ

#### 3. 開催地 (予定)

都内 (国立オリンピック記念青少年総合センターおよび東京大学農学部を予定)

#### 4. 対 象 学部学生・院生・若手研究者

#### 5. 企画内容

1日目 アイスブレイク等

2日目 グループディスカッション

ディスカッションテーマ：

「NN分野の魅力再発見！～私たちにできること～」

今回は、常日頃から学んでいる農業農村工学分野 (NN分野) について、私たちの研究内容、取組みから新たな魅力

を見つけてもらうようなテーマにしました！ NN分野の魅力語るには、私たちの研究や取組みを魅力的に語るのが一番です。ディスカッションでは、グループ間での研究 (取組み) の発表を通して、今後の技術革新でどのような可能性が考えられるのか、さまざまな専門分野の視点からの新しい価値観など、自分ひとりでは気づくことができない魅力について考えてみましょう。全体でまだまだ、NN分野を選択する学生が数少ないのが現状ですが、その原因は何でしょうか？ 他の分野との違いやNN分野の特色についても整理しながら、NN分野の新たな価値観を創出できたらと思います。参加者1人1人にこの分野の魅力が詰まっていると思いますのでぜひ、積極的な参加をお願いします！ (研究がまだ始まっていない学部3年生は今取り組んでいる学習の内容や興味のあることについて教えていただければ大丈夫なので、お気軽にご参加ください。)

ディスカッションの流れ (変更の可能性あり)

1. グループ内で研究内容 (取組み) を発表
2. 研究の可能性や魅力の議論
3. 農業農村工学の魅力の議論
4. 共同研究のテーマについて議論
5. 発表

3日目 サントリー〈天然水のビール工場〉東京・武蔵野ブルワリー見学 (予定)

#### 6. 参加費用 (予定)

参加費 8,000円程度

※2日目の昼食代と交通費は参加費に含まれておりませんので、ご注意ください。

#### 7. 詳細・参加申込み

以下のホームページにて随時公開予定です。

参加申込期間：7月上旬～8月上旬 (予定)

URL：<http://nsumsemi.wp.xdomain.jp/>

#### 8. 問合せ先

Email：[n.n.summer.seminar@gmail.com](mailto:n.n.summer.seminar@gmail.com)

## 2019年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について (再)

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度 (原則1件20万円以内) です。

本年度の申請締切は2019年9月13日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式 (末尾参照) で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、

- 申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
  3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
  4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
    - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
    - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ハ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。
 

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。
6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：2019年9月13日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

#### 必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

## 今年もやります！ こりゃ映像！ 2019—ミニ動画コンテスト—（再）

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2019年7月31日（水）17時
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2019年度のテーマ 農業用水
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞（1作品）2万円  
優秀賞（2作品）各1万円
8. アップロード方法
  - ① 動画を作成する。
  - ② YouTubeにアップロードする（9. 参考資料を参照）。
  - ③ タグに3つのワード（jsidre2019, こりゃ映像, 農業用水）を入れる。
  - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
  - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT（new-suido@jsidre.or.jp）宛にメールで送る。  
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube動画のURL）

#### 9. 参考資料

- ・ YouTubeにPCから動画をアップロードする方法  
<http://douga-tec.com/?p=4974>
  - ・ スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門  
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
  - ・ 【2017年版】Youtube（ユーチューブ）に動画をアップロードする方法  
<https://www.youtube.com/watch?v=O1slFYR0KIY>
  - ・ 動画作成のヒント（超かんたん動画投稿法）  
<https://www.youtube.com/watch?v=eq5PUALLukk>
- <参考>こりゃ映像2018 結果（テーマ：私のかんがい施設遺産）
- 最優秀賞：万葉のゆたかな水の里 下八ヶ佐加野用水  
富山県土地改良事業団体連合会 竹沢良治  
高岡市土地改良区 北川 孝  
<https://www.youtube.com/watch?v=b2NvJysXF0o>
- 優秀賞：田の下の力持ち、府中用水  
東京農工大学大学院 国際環境農学専攻 岩本智寛  
[https://www.youtube.com/watch?v=fy0NadQy\\_gQ](https://www.youtube.com/watch?v=fy0NadQy_gQ)

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

消費税率の改定予定に伴う定価表示の変更について (再)

2019年10月1日から消費税率の引上げが予定されているため、定期刊物の購読料および図書の定価表示を2019年4月から下記のように外税表示に変更いたしました。会員の皆様のご理解をお願い申し上げます。

●定期刊物 (学会誌・論文集)

学会誌 1冊：本体1,115円+税

非会員年間購読料 16,848円

(1,204円(8%時)+200円(送料)の12ヵ月分)

論文集 1冊：本体7,570円+税

年間購読料

会員 (名誉, 正, 賛助)

7,570円+税

学生会員

4,000円+税

非会員年間購読料 (年2回冊子発行)

16,750円 (8%時)

(1冊の定価(8,175円, 8%時)+200円(送料)の2冊分)

●出版物の定価表示

図書は、「本体価格+税」に統一する。本体価格は、現行価格(消費税8%含む)を1.08で割り戻し、円単位で四捨五入して10円単位とする。

例：設計ダム

変更前定価表示 19,543円 (消費税8%含む)

変更後定価表示 本体18,100円+税

PWE誌年間購読料の値下げについて (再)

オンラインジャーナル Paddy and Water Environment (PWE誌) について、2018年度の学会と発行元のSpringer社との契約変更、および今後の購読者数などの動向や会員サービスの向上などを踏まえ、2019年4月から下記のとおり年間購読料を値下げいたしました。

PWE年間購読料

値下げ後

値下げ前

正会員・名誉会員

9,000円+税

12,343円

(9,720円, 消費税8%時) (消費税8%含む)

学生会員

4,500円+税

8,743円

(4,860円, 消費税8%時) (消費税8%含む)

会費等の「振込手数料」のご送金者 (会員様等) 負担について (再)

ゆうちょ銀行の手数料値上げに伴い、従来学会負担としていた「振込手数料」について、2019年4月1日からすべての「振込手数料」をご送金者 (会員様等) の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいた

します。

【主な対象となる振込手数料】

① 会費

② CPD 利用料

## 「農業土木標準用語事典 改訂5版」の会員価格に関するお知らせ（再）

2019年8月末に「農業土木標準用語事典」の改訂版が出版される予定です。それに伴い、現在、発行されている「農業土木標準用語事典 改訂5版」の会員価格を割引きして特別価格で販売中です。

なお、非会員の方はこれまでどおり、定価の販売となります。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,805 円	4,628 円
特別価格	一般会員 3,000 円 学生会員 2,500 円	—

## 学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック+用語事典+初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

### ①ハンドブック3点セット

（ハンドブック+用語事典+初年度会費）

学部生 17,000 円 (15,750 円)

大学院生 19,500 円 (16,750 円)

### ②必携3点セット

（必携+用語事典+初年度会費）

学部生 7,000 円 (5,750 円)

大学院生 10,000 円 (7,250 円)

### ③2点セット

（用語事典+初年度会費）

学部生 5,000 円 (3,750 円)

大学院生 8,000 円 (5,250 円)

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先 （公社）農業農村工学会 図書係

E-mail：suido@jsidre.or.jp

## 「CPD 技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について（再）

農業農村工学会技術者継続教育機構では、技術者自身が CPD 登録期間中の「認定ポイント」、「取得ポイント」、「過年度の研鑽履歴のトレンドをグラフ化した情報」などを確認し、目指す専門分野の技術力向上や資格取得に向けて効率よく研鑽ができるよう、2019年3月18日から「CPD 技術者サポート票」

（Excel ファイル）の無料ダウンロードサービスを開始しました。ご利用手順などについては当機構ホームページの「お知らせ一覧」をご参照ください。

[http://www.jsidre.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/CPD\\_engineersupport\\_190320.pdf](http://www.jsidre.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/CPD_engineersupport_190320.pdf)

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構

の CPD 個人登録者

### 2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 7 号掲載の問題は 8 月末日が解答期限）

### 5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録



(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。)

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

6. 自動登録の時期

2020年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2020年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業(水利)施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠(造形美、用の美、融合の美)とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業(水利)施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第88巻(2020年1~12号)

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。(プリントは「写真用紙—フォトペーパー/滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます)。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき5MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 2019年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したのものに限ります。

6. 審査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第88巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2020年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History(表紙写真由来)の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文(500字程度)をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>)

journal/)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

### 学会誌第 87, 88 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 縮 切 (A 4 判 1,500 字以内)
第 87 巻第 8 号	農村地域における生活環境整備の現状と今後の対応策 (仮)	終了
9 号	農地集積 8 割の達成後、農村はどのように変化していくのか (仮)	終了
10 号	世界かんがい施設遺産や世界農業遺産による農村の活性化 (仮)	終了
11 号	学会創立 90 周年記念号 I (仮)	—
12 号	学会創立 90 周年記念号 II (仮)	—
第 88 巻 1 号	農業農村工学におけるソフトウェアの開発と利用 (仮)	7 月 10 日
2 号	東日本大震災からの復旧・復興 (仮)	8 月 10 日
3 号	新規就農者の可能性とそのための課題や取り組み (仮)	9 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4  
(公社)農業農村工学会  
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて  
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494  
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

### 第 88 巻第 1 号テーマ「農業農村工学におけるソフトウェアの開発と利用」(仮)

1970 年代以降、コンピュータおよび各種ソフトウェア（プログラム、アプリケーション）の利用は、課題解決のための必須な手段となっています。さらに近年では、ICT の進歩により人工知能（AI）の適用もさまざまな分野において推進・研究されています。農業農村工学においても、スマート農業の基盤を推進し各種課題を解決するためのソフトウェアの開発が行われるとともに、自作・商用・非商用を含め数多くのソフトウェアが数値シミュレーション、意思決定支援、作業・管理の自動化、データ取得・分析・管理のためのツールとして実務や研究にお

いて使用されています。

このような日々進化する各種ソフトウェアの利活用に関する情報を学会員で共有することを目的として、本小特集では、農業農村工学の各種課題を解決するためのソフトウェアの開発、その活用事例や特徴、最新技術の導入、今後の発展や利用可能性について紹介・解説する報文を、事業主体、行政部署、大学、研究機関、開発事業者およびメーカーなどさまざまなソフトウェアの開発者・利用者から広く募集いたします。

### 第 88 巻第 2 号テーマ「東日本大震災からの復旧・復興」(仮)

東日本大震災から 2019 年 3 月で 8 年が経過し、被災地の復旧復興が進み、岩手県、宮城県、福島県の被災農地の 88%、排水機場の 99%、農地海岸堤防の 97%が復旧し、被災農地を大区画化する仙台東地区も完了を迎えています。

しかしながら、東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難指示などがなされた福島県下の原子力被災 12 市町村においては、津波による農地の甚大な被害に加え除染後の地力低下などの課題も明らかとなり、農家は長期かつ遠方への避難や、風評被害、鳥獣被害など複合的な要因が相まったなか、営農再開も想定以上に進まない状況が続いています。したがって、福島県については本格的な復旧・復興はこれからの状況です。こ

うした厳しい状況下においても営農再開の機運は、早期に避難指示解除された地域から次第に高まってきており、地域の復興において農業農村整備の実施がきわめて重要な役割を担っています。

このように、東日本大震災の復旧・復興は各地域の事情によりその進捗が異なる状況となってきており、復旧・復興がこれから着手される地域もあることから、各地の復旧・復興状況を紹介するとともに、復旧を契機とした新たな農業の展開が図られている地域の紹介や復旧・復興に難航している地域に係る調査、工法の選定と施工の事例や課題などについて、広く報文を募集いたします。

第 88 卷第 3 号テーマ「新規就農者の可能性とそのための課題や取組み」(仮)

農業就業人口は 2018 年で 175.3 万人 (平均年齢 67 歳)、2010 年の 260.6 万人から 8 年間で 33%減少と農業の担い手の面からきわめて厳しい状況にあります。わが国では大区画圃場による経営の大規模化、IoT や AI 技術など農作業への先端技術の活用も推し進められるところです。その一方で、国連では世界中の家族農業の権利を守る宣言の採択により、小農を重視する潮流が見られます。

また、わが国の農業分野への海外研修者は年々増加しており、技能実習生意向申請者数 (滞在期間が最長 5 年) は 2013 年 510 人から 2017 年 2,758 人 (5.4 倍/4 年間) に増加しています。「働き方改革」と合わせて 4 月に施行された「改正入管法」は、詳細基準こそ未確定ですが海外労働者の長期滞在化が検討

され、農業分野 (耕種・畜産農業全般) では 5 年間で 3.65 万人を受け入れる予定です。諸外国で移民問題が噴出する中で異常なほど性急なる法制化の動きに、受け皿となる農村社会への悪影響が懸念されます。

このような農業就業環境の変化に対して、農業の持続性や地域の振興を図るため、現状を把握するとともに、都市農業、都市農村交流、既存農業組織や農業者の持続性、および、農村での外国人材の位置づけと社会的包摂のあり方について、議論と合意形成が大切です。そこで本小特集は、就農者を増やし、豊かな農村地域を形成する可能性とその課題や取組みについて、長期・短期の観点からの研究や事例、提案などを集め、農業の持続性や地域振興について考える機会としたいと思います。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2018 年 7 月から 2020 年 6 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017 年のインパクトファクター (IF) は過去最高の 1.379 となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界 11 カ国から Editor (19 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical

Report および Short Communication の 4 種類です。

一方、2018 年 7 月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)  
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ Associate Editors-in-Chief  
Dr. Seong-Joon Kim  
Konkuk University, Korea  
Dr. Chen-Wuing Liu  
National Taiwan University, Taiwan, ROC
- ・ Editors 11 カ国から 19 名
- ・ Editorial Advisors 29 名
- ・ Chief Managing Editor  
Dr. Kimihito NAKAMURA  
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ Managing Editors  
Dr. Eunmi Hong  
Kangwon National University, Korea  
Dr. Inhong SONG  
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea  
Dr. Chihhao FAN  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China  
Dr. Kuo-Wei LIAO  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China  
Dr. Hiroshi IKEURA

Rural Development Division, Japan International  
Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),  
Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata  
University, Japan

編集事務局 (2018年7月から2020年6月まで)

・ Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan  
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502,  
JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になり

ます。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者である  
こと。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載してい  
ます。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000円+税

学生会員 (院生含む) 4,500円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず  
農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度  
からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっていま  
す。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 ([suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)) まで会  
員番号を明記の上、お申し込みください。

令和元年度東北支部総会・第61回東北支部研究発表会ならびに  
第51回東北支部研修会・第41回地方講習会の開催について (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期日 令和元年11月12日(火)、13日(水)

2. 会場 秋田ビューホテル

〒010-0001 秋田市中通2-6-1

TEL : 018-832-1111

3. 会場までのアクセス

(1) JR利用の場合

JR秋田駅西口から徒歩約2分

(2) 航空機利用の場合

秋田空港よりリムジンバスで約40分乗車

「秋田駅西口」バス停下車 徒歩約2分

4. プログラム概要 (案)

[第1日目] 11月12日(火)

(1) 支部総会・研究発表会

(2) 情報交換会

[第2日目] 11月13日(水)

(3) 支部研修会・地方講習会

5. 研究発表の申込み

(1) 申込み・原稿受付期間

令和元年8月19日(月)~9月20日(金)

(2) 申込み・問合せ先

〒010-0444 南秋田郡大潟村字南2-2

秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科

永吉武志

TEL : 0185-45-3915 FAX : 0185-45-3915

Email : [tnaga@akita-pu.ac.jp](mailto:tnaga@akita-pu.ac.jp)

(3) 要領

研究発表要旨集原稿の書き方、投稿票ファイルについ  
ては、農業農村工学会東北支部のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/tohoku/>) に掲載していますので、ご  
参照ください。

6. その他

参加申込みを含めたその他の詳細は本学会誌8号に掲載予定  
です。

第70回関東支部大会 (講演会・講習会等) の開催について (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部大会 (講演会・講習会等)

(1) 日時

令和元年11月8日(金) 11:00~17:00

(受付 10:00~)

(2) 会場

ふじのくに千本松フォーラム プラザ ヴェルデ

〒410-0801 静岡県沼津市大手町1-1-4

TEL : 055-920-4100

<https://www.plazaverde.jp>

(3) 会場への案内

○公共交通機関の場合

JR東海道本線沼津駅北口より徒歩3分

○車の場合

東名高速道路沼津ICから一般道で約15分

※施設に駐車場はありますが、有料で数に限りがありま  
す。料金は、各自での負担をお願いいたします。

2. 情報交換会

- (1) 日時  
令和元年 11 月 8 日 (金) 17:30~19:30
- (2) 会場  
ふじのくに千本松フォーラム プラサ ヴェルデ

3. 参加申込方法

- (1) 申込方法  
「第 70 回農業農村工学会関東支部大会申込書」に必要事項を記入し、所属機関ごとに取りまとめのうえ、E-mail または FAX、郵送にてお申し込みください。
- (2) 申込期限 令和元年 8 月 30 日 (金)
- (3) 参加費  
・講演会と講習会 2,500 円 (講演発表者 (共同発表者除く) は無料)  
・情報交換会 6,000 円
- (4) 昼食  
昼食を希望される方は、お弁当 (1,000 円) を用意いたしますので、参加申込みと同時に申し込みください。ただし、講演発表者 (共同発表者除く) は無料です。  
駿河湾の深海魚を使用したフレンチシェフ特製弁当を予定しています。
- (5) 参加費等の納入方法  
令和元年 9 月 30 日 (月) までに全額前納してください。なお、キャンセル、変更については、令和元年 9 月 30 日 (月) 以前の申し出に限りまして、振込手数料等の実費を差引き返金いたします。それ以降のキャンセルにつきましては応じかねますので、ご了承ください。

【留意事項】

振込手数料は、各自にてご負担願います。

【振込先】

スルガ銀行 静岡県庁支店  
店番号: 724 口座番号: 普通 3647189  
口座名義: 第 70 回農業農村工学会関東支部大会 事務局 代表 櫻井正陽  
(ダイナナジユツカイノウギヨウノウソン  
コウガツカイカントウシブタイカイジム  
キョクダイヒヨウサクライマサハル)

※振込元が申込書と照合できるように、氏名・所属の順で必ず記入願います。

- (6) 申込先および問合せ先 (事務局)  
静岡県経済産業部農地局農地計画課事業調整班  
渡邊 小粥  
〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町 9-6  
TEL: 054-221-2715 FAX: 054-221-2449  
E-mail: nn-kanto@pref.shizuoka.lg.jp

(7) 申込様式

申込様式は、静岡県経済産業部農地局農地計画課ホームページ上に掲載してありますので、ファイルをダウンロードしてご利用いただくことも可能です。  
(<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-440/index.html>)

所 属	電話番号		FAX 番号		E-mail
申込者氏名	所属所在地 〒				
ふりがな 氏 名	区 分	参 加 者		昼 食	合 計 額
	発表者 共同発表者 学 生 一 般	参加の有 無を○× で記載	参加の有 無を○× で記載	昼食の有 無を○× で記載	金額を 記入
例) 関東太郎	一般	○	○	○	9,500 円
例) 関東次郎	発表者	○	○	○	6,000 円
合 計					¥

4. 講演発表者申込方法

- (1) 申込方法  
静岡県経済産業部農地局農地計画課ホームページ上に掲載してあります「支部講演会投稿票」に必要事項を記載し、3. (6) の事務局あてにメール送信してください。受領確認はメールで行います。
- (2) 申込期限 令和元年 8 月 2 日 (金)
- (3) 原稿締切 令和元年 8 月 23 日 (金)
- (4) 原稿枚数 2 枚または 4 枚
- (5) 申込先および問合せ先 3. (6) に同じ
- (6) 講演時間 質疑応答を含め 14 分 (移動・準備 1 分)
- (7) その他 幅広い分野からの応募を歓迎いたします。

講演概要 (200 字) は学会誌や学会ホームページなどで公表させていただきます。

講演者発表者 (共同発表者除く) の参加費・昼食については無料です。情報交換会は 6,000 円です。

3. の参加申込みにて昼食および情報交換会について申込みをお願いします。

5. その他

- ・宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自での対応をお願いします。
- ・詳細は、静岡県経済産業部農地局農地計画課ホームページご確認ください。  
(<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-440/index.html>)

## 第74回中国四国支部講演会ならびに第43回地方講習会の開催について (第3報)



技術者継続教育機構認定プログラム申請中

## 1. 日程

## (1) 支部講演会

日時：2019年10月17日(木)

会場：山口県総合保健会館(山口県健康づくりセンター)

〒753-0814 山口県山口市吉敷下東3-1-1

TEL：083-934-2200 FAX：083-934-2209

## プログラム

受付開始 9:30~

開会式 10:00~10:15

支部表彰式 10:15~10:25

特別講演 10:40~12:00

「衛星リモートセンシングを用いた農村モニタリングの可能性」

山口大学副学長(国際連携担当) 三浦房紀

&lt;昼食 12:00~13:00&gt;

一般講演 13:00~17:00

## (2) 情報交換会

日時：2019年10月17日(木) 18:00~20:00

会場：西の雅 常盤

〒753-0056 山口県山口市湯田温泉4-6-4

TEL：083-922-0091 FAX：083-924-3080

※講演会会場からは旅館バスにてご案内します。

## (3) 地方講習会

日時：2019年10月18日(金)

会場：山口県総合保健会館(山口県健康づくりセンター)

※テーマは調整中。決定次第、中国四国支部ホームページでお知らせします。

## 2. 講演申込み

## (1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを含め1課題3ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページの支部のページ(<http://jsidre.or.jp/tyugoku/>)に掲載している講演原稿の書き方に従って原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票(前記支部ページからダウンロード)をメールにより下記の講演申込先までお送りください。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」としてしてください。受領確認はメールで返信を行います。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演者(○印)の方は必ず連絡先メールアドレスをお書きください。

## (2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名が学会員であることが必要です。

## (3) 講演方法

個人発表とし、講演補助として液晶プロジェクター、パソコン、パワーポイントを準備します。

## (4) 講演時間

1課題につき15分程度です。

## (5) 講演要旨集

申込みのあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

## (6) 原稿の締切日

2019年8月21日(水) 必着でお願いします。

## (7) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

島根大学生物資源科学部 深田耕太郎

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL：0852-32-6550

E-mail：fukada@life.shimane-u.ac.jp

※参加窓口と原稿提出窓口を別にしてありますので、ご注意ください。

## 3. 参加申込み

## (1) 参加申込書

参加申込みについては、以下の申込み様式に従い、所属機関ごとにまとめてメールにより下記(2)までお送りください。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会申込み」としてしてください。なお、様式は、学会ホームページの支部所在地、支部大会などのページ(<http://jsidre.or.jp/tyugoku/>)からダウンロードできます。

## (2) 支部講演会、情報交換会、地方講習会、申込窓口・問合せ先

山口県農林水産部農村整備課 井川、藤井、猶

〒753-8501 山口県山口市滝町1-1

TEL：083-933-3418 FAX：083-933-3429

E-mail：a17500@pref.yamaguchi.lg.jp

※参加窓口と原稿提出窓口を別にしてありますので、ご注意ください。

## (3) 申込み締切日

2019年8月30日(金)

## (4) 参加費等の納入方法

原則として、参加申込みに併せて次の銀行口座に全額前納でお振込みをお願いします。振込手数料については、振込人負担をお願いします。

また、振込み元がわかるように、所属・氏名等は必ずご記入ください。

なお、振込み後の参加費等の返金については、原則応じ

られませんのでご注意ください。

【振込口座】

- 銀行名：山口銀行 県庁支店
- 店番号：044
- 口座番号：(普通) 5033018
- 名義人：支部講演会・講習会実行委員会

委員長 長嶺 栄治  
(シブコウエンカイ コウシュウカイジッコ  
ウイインカイ イインチョウ ナガミネ  
エイジ)

(5) 参加費等

- ・講演会参加費【一般：2,000円, 学生：1,000円】  
※講演者をはじめ、講演会に参加される方はお支払い  
ください。
- ・昼食代【一般：1,000円, 学生：1,000円】
- ・情報交換会【一般：6,000円, 学生：6,000円】
- ・地方講習会【一般：2,000円, 学生：無料】

(6) 宿泊案内

宿泊の斡旋・手配等はいりませんので、各自でのご対応  
をお願いいたします。

**土壌物理研究部会第58回研究集会の開催について (第1報)**

1. 主催 農業農村工学会 土壌物理研究部会  
共催 土壌物理学会
2. 日時 令和元年10月25日(金)午後
3. 場所 つくば農林団地内農林水産技術会議筑波事務所  
「筑波農林ホール」
4. 参加費 未定  
(要旨集代を申し受けます。ただし学生は無料。)
5. 研究集会テーマ  
土壌—根—植物—大気：根圏の水・物質動態と作物モデル
6. プログラム 調整中  
予定話題提供者  
農研機構農業環境変動研究センター気候変動対応研究領域  
主任研究員 中野聡史  
北海道大学大学院農学研究院 教授 信濃卓郎

三重大学大学院生物資源学研究所 講師 坂井 勝  
※翌日の10月26日(土)、同会場で「土壌物理学会シンポジ  
ウム」を開催予定です。情報交換会は後日開催の土壌物理  
学会と共催します。  
詳しくは <https://js-soilphysics.com/conf> をご覧ください。

7. 問合せ先

農業農村工学会土壌物理研究部会事務局  
〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1  
東京大学大学院農学生命科学研究科  
西村 拓, 濱本昌一郎  
TEL: 03-5841-5350, 5351 FAX: 03-5841-8171  
E-mail: [nnsbukai@gmail.com](mailto:nnsbukai@gmail.com)  
URL: <http://www.jsidre.or.jp/dojyo/>

**第29回農村道路研究部会・研究集会の開催について (第1報)**

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 農業農村工学会農村道路研究部会
2. 特定課題 スマート農業の普及・地域活性化に寄与する農  
村道路・基盤整備のあり方  
(1) 招待論文：特定課題  
(2) 研究論文：特定課題および農村道路に係わる研究課題  
(3) 技術報文：農村道路に係わる調査・計画・施工の自由課  
題
3. 現地研修 新潟県内を計画中
4. 期 日 令和元年11月13日(水) 研究集会および現地研  
修
5. 発表申込み  
(1) 研究集会で研究論文、技術報文を発表するためには発  
表申込みを行う必要があります。発表申込みおよび原稿作成要  
領は、農村道路研究部会ホームページ (<http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/Welcome.html>) よりダウ  
ンロードすることができます。  
(2) 発表申込みは、発表申込書に必要事項記入の上、E-mail

に添付して申込み先に提出してください。表題は「農村道路研  
究部会研究集会の発表申込み」としてください。

- (3) 発表申込期限 令和元年9月30日(月)
- (4) 原稿提出期限 令和元年10月4日(金)

6. 会 場

新潟大学駅南キャンパスときめいと  
〒950-0911 新潟県新潟市中央区笹口1-1 プラウカ1・2階  
TEL: 025-248-8141 FAX: 025-248-8144  
E-mail: [tokimate@adm.niigata-u.ac.jp](mailto:tokimate@adm.niigata-u.ac.jp)  
URL: <https://www.niigata-u.ac.jp/university/facility/tokimate/>

7. 参加費 3,000円(テキスト代)

当日、受付にて徴収させていただきます。

8. 参加申込み

以下の項目をご記入の上、FAXもしくはE-mailにてお申し  
込みください。その際、表題は「農村道路研究部会・研究集会  
への参加申込み」と明記してください。

- ①参加者氏名, ②所属機関名, ③所在地, ④ TEL, FAX, E-mail アドレス, ⑤弁当 (代金1,000円) 予約注文希望の有・無, ⑥CPD 個人登録者番号 (登録希望の方)

#### 9. 申込み・問合せ先

〒034-8628 青森県十和田市東二十三番町 35-1  
北里大学獣医学部気付 農村道路研究部会事務局

申込受付担当: 島本由麻

E-mail: shimamoto@vmas.kitasato-u.ac.jp

10. 申込締切り 令和元年11月1日(金)

11. 宿泊 各自で手配していただきますようお願いいたします。

12. その他 詳細は、本学会誌8号に掲載予定です。

### 日本混相流シンポジウム2019の開催について

日本混相流学会混相流シンポジウム2019は、2019年8月5日(月)～7日(水)の期間、福岡大学(福岡市)で開催されます。本シンポジウムはオーガナイズドセッションと一般セッションから構成されており、研究成果とその討議を通じて、混相流の学理とその応用技術に関する最新の情報交換を行い、混相流研究のさらなる展開と参加者相互の活発な意見交換を目指しております。混相流は、固体・液体・気体を含む複雑流動現象であり、かつ自然界から産業プラントにまで広く見られる普遍的な流動現象です。オーガナイズドセッションとしては、混相流が広範囲の産業と密接に係わりがあることを踏まえ、環境、材料、機械、土木、原子力、化学、航空宇宙、などを横断的に含む内容を取り上げております。このように、混相流シンポジウム2019では、混相流関連の研究そして技術開発に携わっておられる研究者や技術者ならびに混相流を中心とした最新の科学技

術の進展にご関心のある方々による多数の講演発表と活発な意見交換を期待しております。どうぞ、奮って参加のお申込みをお願い申し上げます。

詳しくは、日本混相流シンポジウム2019 ホームページ (<http://jsmf.gr.jp/mfsymp2019/>) をご覧ください。

1. 主催 日本混相流学会

共催 福岡大学

協賛 (公社)農業農村工学会ほか33団体

2. 日時 2019年8月5日(月)～7日(水)

3. 場所 福岡大学

(福岡県福岡市城南区七隈8-19-1)

4. 問合せ先

日本混相流学会 混相流シンポジウム2019実行委員会

E-mail: konsosymp@jsmf.gr.jp